

戦没者への慰靈の思いを再認識し、受検料の一部を国内外にある慰靈碑の再整備事業に充てる「戦史検定」が11月19日、大阪府八尾市で行われる。平成22年から東京都内で毎年実施されており、大阪では初開催となる。今回の受検料は、熊本地震で被害を受けた熊本県護国神社境内の慰靈碑の修復に充当する予定だ。

戦史検定は初級（50問）と中上級（100問）で実施。近現代史の研究家らが問題を作成し、日中戦争から第二次大戦などを中心に5者択一のマーケシート方式で出題される。

主催する戦史検定協会は、昭和40年代から戦没者の慰靈や遺骨収集に携わってきたNPO法人「JYMA日本

青年遺骨収集団」などで構成。これまでに徴収した受検料で、ガダルカナル島やグアム島の壊れたまま放置されている慰靈碑の修復を行つてき

た。

近畿での実施を目指してきた協会メンバーで元中学教諭の筒居譲二さん（58）は「300万人もの犠牲を出したのに、戦史は国民にあまりにも知られていない。受検することで知るきっかけになるはず」と話している。

申し込みは10月15日まで。受検会場は八尾市文化会館プリズムホールと都内のが力所。受検料は初級が3800円、中上級は5500円。問い合わせは同協会（☎03・3524・7299）。

厚生労働省は業法に基づく常設法に基づく课堂教学に上つたと公件数が、全国で平成28年度に自の指導や調査に

しており、厚労省宿泊施設として「民泊」の影響ある」としてい

**無許可**

民泊